

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0191513704		
法人名	株式会社 杉の木ケアサービス		
事業所名	グループホーム杉の木 2階ユニット		
所在地	〒049-0422 北海道上磯郡木古内町字本町704		
自己評価作成日	令和3年9月2日	評価結果市町村受理日	令和3年11月11日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kan=true&JigyosyoCd=0191513704-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	令和3年10月17日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ol style="list-style-type: none"> 24時間医療連携がとれる体制を整えている 地域の食材、特に旬のものを利用した手作りの料理を提供している 介護が画一的にならないよう入居者様の個性を尊重した介護を行うよう心掛けている ご家族様も参加できるような催し物を企画、開催している 地域の方々が収穫した野菜や料理をふるまってくれたり等で協力してくださる 内装は地元の杉材を利用し、落ち着いた雰囲気統一している
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「グループホーム杉の木」はJR木古内駅から徒歩10分程の距離にあり、「老人保健施設いさりび」と1階が廊下で繋がったコンクリート造り3階建ての2・3階部分(2ユニット)が当事業所である。近くには木古内町国保病院やコンビニエンスストア、ドラッグストアなどがある、生活に便利な場所である。眼下に神聖な「みそぎ祭り」が行われる浜が間近に見ることが出来、この地に住む人にとって欠かせない大切な風景が広がる。事業所の玄関の引き戸や内装に地元産の杉材をふんだんに使った素朴で穏やかな佇まいである。特筆すべき点は徹底した個別ケアにある。毎月運営者(医師)、全職員で利用者一人ひとりのカンファレンスを丁寧に行っている事である。退院直後は流動食だった利用者も1年をかけて普通食が摂れるまでに回復させている。画一的なケアを止めハンドベルの演奏に取り組んだり、ゲームを楽しみながら声を出し、体を動かすことで身体機能回復を促している。利用者は職員に「今日は何をして遊ぶの?」と尋ねるのが朝のあいさつになっている。利用者が楽しみにしている事は多くあり、料理好きの職員が休みを返上して様々な料理を作り、2ユニット合同で行ったバイキングは大好評で、「今度は何時するの?」と職員に何度も訪ねる利用者がいるほどである。職員は、運営者(医師)の「これで良いと思わないこと」の言葉に牽引されながら利用者が毎日心弾む日々を過ごせるように取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階ユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	住み慣れた地域で自分らしく安心して暮らせる柔軟な支援を理念として掲げ、施設内に掲示しご家族、来客の方々も目にする事ができます。申し送りやホーム会議で再確認を行い実践に取り組んでいます	運営者(医師)、職員は毎月のミーティングや申し送り時に理念が介護の基本である旨を確認し、理解を深めて実践につなげている。事業所内に掲示して、家族や来訪者との共有にも取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	催事には体調に合わせて参加し、ホームの催事は事前に案内を伝え地域の方々の参加を呼び掛けている	利用者の買い物は職員が代行し、近所への散歩は体調に配慮しながら行っている。町内の老人クラブからジャガイモの差し入れをもってきたり、農家の方が野菜を持って来訪する時は、感染症対策をして今までの様な近所付き合いを継続している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方々に認知症介護に関する不安や相談に対応できるように努めています		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に活動報告と意見交換を行っています。いただいた意見はホームの運営やサービスの向上に役立っています	年6回開催している。感染症対策のため自粛中は書面開催し、解除後は通常通りの運営会議を密を回避できる事業所以外の広い場所で実施し、利用者の日々の暮らしぶりやケアサービスの様々な取り組みについても報告している。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括支援センター、社会福祉協議会の方々と密に連絡を取りサービスの質の向上と提供に努めています	定期的に地域ケア会議に出席している。コロナワクチン接種に関しての相談や情報交換は密に行っている。設備業者など外部の方が出入りする際には感染予防対策について、都度、行政からアドバイスを得ている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修や勉強会を通して身体拘束に関する知識の共有を図り、身体拘束をしないケアの実践に努めています。やむを得ない場合はスタッフ会議で検討、ご家族様へ十分な相談、状況の十分な説明を行い、了承をいただいた場合のみ行うこととしています	身体拘束廃止委員会が中心となって内部研修を実施し、また、オンライン研修資料を全職員で共有している。センサーを使用する際は全職員で検討を重ね、家族に説明をし了解を得て行い利用者の安全を確保している。利用者一人ひとりを丁寧に観察し、課題が見つかった時は申し送りや毎月のミーティングで検討し、拘束のいらないケアを実践している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会や勉強会を通して虐待防止に関する認識の共有を図り虐待のないケアの実践に努めています。		

グループホーム杉の木

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階ユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	地域福祉権利擁護事業、成年後見人制度の理解に努め、必要とされるケースに遭遇した場合制度を活用するため関係機関と連携を深めるように体制を整えています		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入退所時は十分に説明を行い、不明な点があればいつでも聞いていただくようお願いしています。特に料金や予想されるリスク、看取りの対応、医療連携についてご理解いただけるまで詳しく説明させていただいています		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入所時に相談苦情についてご家族に説明し、要望や苦情がある場合は運営者に報告、職員全体で話し合い改善に取り組んでいます	遠方の家族から日々の暮らしぶりを写した写真が欲しいとの要望があり、職員で検討し迅速に対応し、家族との更なる信頼関係を築いている。また、定期的に発行するホーム便りにも家族の了解を得て以前より多くの写真を掲載するよう取り組んでいる。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理職はできる限り職員の状況把握に努め、記録の確認、申し送りの際に意見相談を聞き全職員が周知できるよう連絡ノートやホーム会議の場を活用しています	利用者と家族の絆を大切に、一回でも多く面会をしてほしいとの思いからWi-Fi環境を整備し、リモートでの面会も可能にし、また、携帯電話の持ち込みも許可している。運営者(医師)と全職員で話し合い、利用者の身体機能に配慮して、全て電動ベッドに入れ替えている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は定期的にホームを訪れ勤務の実態を把握、相談やアドバイスを行っています。職員が日常的に学ぶことができるよう資料の配布や研修、講習の開催、親睦の機会を設けたり、定期的な健康診断を実施しています		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所内でテーマを決め研修を行っている他、外部研修や講習会などはシフトを調整して多くの職員が参加できるように計らい、参加者には後日レポートを作成し伝達講習も行い参加できなかった職員にも知ってもらえるようにしています		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会などの会合に参加、交流を図り情報収集やサービスの質の向上に取り組んでいます		

グループホーム杉の木

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階ユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に見学や面談でご家族、ご本人様から話を伺い、関係機関の方からも情報を得てスタッフで話し合い安心できるような受け入れ態勢を準備しています		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会時や電話等でご家族様とお話ができる時には何か気になることはないか、意見要望はないか伺っています		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族やご本人の希望に沿った支援を行うことは当然ですが、現状を見て必要な支援が足りていないと判断できる場合は職員全体で話し合い必要な支援を提案するなど様々な対応を行っています		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	毎日の日常的な会話の他、おやつや生活用品の買い物や近所の散策に一緒に出掛けたり、献立の希望を伺ったり共にホームで支えあって暮らしていける関係を築けるように日々努めています		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様でないとうまくいかないことなどもあるので、負担にならないよう配慮しながら協力していただくことでそれぞれの役割の中で本人を支援しています		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	なじみの方からの手紙、電話、面会、外出支援などできる範囲で入所前の交流が行えるよう努めています	理・美容は家族の許可を得て職員が行っていたが、感染対策を万全にしたうえで、訪問理・美容を再開する予定である。孫と毎週手紙の交換をしている利用者は職員が投函を代行し、家族との関係が途切れない様に支援している。毎年、初日の出を見たり、みそぎ祭りを見学する習慣も継続している。面会は玄関先で透明なカーテン越しに何時でもできる様にしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクや軽作業など利用者同士で関われる環境を多く見つけ情報を共有し共同生活が送れるよう努めています		

グループホーム杉の木

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階ユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院のため退所された方へお見舞いに行ったり、退所された方のご家族に街中であった時に様子を伺ったりしています		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎日のかかわりの中で見られる表情や態度などから希望や意向を読み取っています。入居者さんそれぞれの想いを大切に対応しています	職員は利用者の気持ちに寄り添いながら生活することで、利用者が心を開き「最後まで此処でお世話になりたい」「この先生(運営者)の傍に居たい」などの本音を牽きだし、フェースシート(生活記録)に蓄積している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前から本人やご家族、関係者に色々伺い生活状況の把握に努めています。入所後も気づいた事はご家族に確認するように努め以前の生活状況にできるだけ近づけるように努めています		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人、ご家族様、関係者の話から生活歴、性格、趣味嗜好を把握し、生活リズムや心理面の変化などは生活記録に記載して共有し全体像の把握に活用しています		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ホーム会議内でケアプランのカンファレンス、モニタリングを行い本人、ご家族の希望を取り入れ次の計画に反映しています	モニタリングは総括表を活用して3か月ごとに行い、毎月運営者(医師)を含めて全職員で利用者一人ひとりのカンファレンスを丁寧に行い介護計画を作成し、更新は半年から1年を目途としている。緊急の場合は申し送り時に検討を加えて臨機応変に見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者それぞれの生活記録に気づいた事、身体精神状態ほか暮らしの様子、発言を記録し、それらについてスタッフで話し合い本人に合ったケアを行っています		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、ご家族の希望にそって通院、買物、理美容院、その他外出外泊などに対応しています		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域との様々な接点を見いだせるよう周辺地域の方々、ボランティアの協力と呼びかけを行っています		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	運営者(医師)の4週間に1回の訪問診療と本人、ご家族が希望するかかりつけ医を利用することにより医師、本人ご家族、ホーム間の報告連絡相談を密にすることで適切な医療を受けられるように努めています	1名国保病院の循環器をかかりつけ医としているが、他の利用者は運営者(医師)をかかりつけ医として4週間ごとの訪問診療と、日常的な健康管理は看護師と介護職員で行い、24時間適切な医療を受けられる体制を整えている。	

グループホーム杉の木

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階ユニット)		外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	スタッフが毎日の入居者さんの状態を報告し医師、看護師が入居者さんの健康管理を行い、本人ご家族様が安心して生活を送れるよう状態に応じた支援を行っています			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時にはスタッフ付き添い医師看護師に必要な情報を提供しています。入院中スタッフお見舞いに行き本人、看護師から様子を伺い状態の変化、把握に努め退院後適切なケアを行えるようスタッフに伝えていきます			
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に看取りについて説明し方針を統一しています。状態に変化ある時はご家族に報告、相談しホームでできる事できない事を説明し今後の方針や具体的な支援の方法について話し合い決めていきます。医師、看護師、介護スタッフが一体となり本人、ご家族の希望を汲み取りその人らしく最期を迎えられる支援を行っています	利用開始時に「本人の尊厳に十分配慮しながら終末期の介護を心を込めて行う」ことを主旨とした指針を家族に説明して同意を得ている。かかりつけ医(運営者)は本人の状態が変化することが予想された時は随時、家族に説明をして意向の再確認を慎重に行い、医師、家族、事業所の意識統一を図っている。また、家族と24時間の連絡体制を確保している。今年度は3例の看取りを経験している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時は医師、看護師に連絡し迅速に対応が行われます。医師の指導の下応急手当やAED講習会を行っており適切な対応ができるように努めています			
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防火管理者が消防、災害対策計画を定め定期的な自主検査と防災訓練及び講習を行っています。非常時には連絡網でスタッフを招集するほか近隣の健康管理センター職員も応援に来てくれる体制を整えています	年2回定期的に防災訓練を実施している。津波災害に備えて垂直避難を考えており、運営者(医師)と全職員で避難方法を繰り返し話し合い、手作りの担架など避難用品も用意している。食料を含めた備蓄品や排泄用品も5日間分ほど準備している。		

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	自尊心、羞恥心に配慮した声掛け、介助を行い、故人の記録ファイルは施錠できる保管庫で管理している。スタッフは採用時に個人情報保護、守秘義務について説明を受け、誓約書に署名しています	本人の生活歴や性格を重んじた対応を心がけている。事業所外で利用者の様子を尋ねられても面会を勧める程度にとどめ、プライバシー保護の徹底に努めている。排泄用品は人目につかない場所で保管している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	スタッフの判断ではなくまずご本人に意思確認をし決めてもらうようにしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床の時間や食事の時間等でできる限りその方のペースに合わせて時間を調整しています。入浴もある程度日程や順番は決まっていますが、本人希望で日時をずらせるように対応しています		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人と相談し希望や意思で選んだり行っていますが、天候や体調を見てスタッフが助言提案することもあります。髪が伸びてきたら理美容院にカットをお願いしています		

グループホーム杉の木

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階ユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者さんそれぞれの好みを把握し、誕生日には好みの献立づくりをしたり楽しく食事ができるよう工夫しています。できる方は一緒のおやつ作りや食事の下ごしらえ	食事は地元の新鮮な旬の食材を使って好きなもの、食べたい物を食べることを大切にしている。正月や雛祭り、節句、節分、彼岸などの行事に合わせた、お節料理、ちらしずし、おはぎなど行事に合った料理を欠かさず作って楽しんでいる。家族や知人が差し入れする果物や野菜、菜園の収穫物は食卓に彩を添えている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	それぞれの食事・水分摂取量を毎日記録し栄養のバランスに注意した献立を考えています。味付けや盛り付け方、量の増減、大きさやきざみ・とろみをつけたりなど工夫して提供しています		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後のうがい歯磨き、義歯の洗浄・つけおき、口腔内の観察を声掛けまたは介助で行っています		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	それぞれの状態により日中は紙パンツ、夜間は紙おむつで排泄したり、夜間だけ室内にポータブルトイレ設置して使用したり、適時排泄の声掛けや誘導・確認を行うなど快適に排泄ができるように努めています	排泄パターンを参考にしながら様子を観察し、さり気なく声かけや誘導をして失禁による心身のダメージがない様に支援している。一人ひとりの皮膚の状態や体型などに合った排泄用品の検討を重ねて適切な物を使用している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	乳製品や繊維質の多い食事、水分補給無理のない範囲での軽い運動などできる限り自然排泄できるように支援しています。便秘で下剤が必要な場合医師に連絡し指示の下で使用しています		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	本人の希望によっては時間を変更したり次の日にしたりすることもできます。入浴する前にはバイタルを確認し問題ないことを確認してから入浴しています	毎日浴槽に湯を入れて、いつでも入浴できるように準備し、週に複数回入浴出来るように支援している。入浴中は得意な歌を唄ったり、職員と子供の頃の話をして楽しんでいる。拒む時はタイミング良く声かけをして入浴につなげている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動のほか臥床時間を設けたりそれぞれのペースで過ごしてもらえるように努めています。室温やホーム・部屋内の明るさにも配慮しています		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	それぞれ薬箱用意、名前・日付・食前食後を記入し薬箱に入れた時、箱から出した時・服薬直前にも薬の確認を行い飲み忘れや誤薬を防いでいます。処方内容はファイルで保管しておりスタッフがいつでも確認できるようになっています		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	レクやちょっとしたお手伝い、軽作業などそれぞれに合ったものをホームでの暮らしの中から探し出し、一緒に楽しんだり作業終了時には感謝の言葉を伝えていきます		

グループホーム杉の木

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階ユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご家族との外出のほか、天気の良い日は買物や散歩、菜園の収穫、地域のイベントを見に出かけています	感染症対策の為、遠出のドライブや外食、買い物は自粛しているが、利用者の体調や天候の良い日には事業所周辺を散歩し、春は満開の桜を愛でている。家庭菜園で作業をしたり、収穫をすることで、五感刺激に取り組んでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金はご家族で管理したり希望があれば施設で管理していますが、少額なら管理できる方にはご家族の了承を得て自身で管理しています		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自身で行うことが困難な方はスタッフが電話をかけたり取り次いだり、手紙の代筆、代読を行っています		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節ごとにその季節にあった飾りつけや小物の作成、植物の水やりを行っています。天候・温度・湿度にあわせカーテンや窓、暖房を調整、共有空間はこまめに換気、清掃し快適に過ごしてもらえるよう配慮しています	玄関や廊下、居間兼食堂は季節を感じさせる装飾にとどめ、スッキリと纏めている。居間兼食堂は大きな窓から陽がたっぷりと入り、温度、湿度も高齢者に合わせて適切に管理している。談話室には掘りごたつの小上がりがあり、利用者がゆっくりと寛げる様に工夫された造りとなっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者さんは自由に共有空間を使用することができます。同じように自室でも過ごせます。部屋にいる時間が長い時は時々スタッフが様子を見に行ったり、声掛けを行っています		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時にいくつか使い慣れたものを用意してもらっています。家具などは部屋の入り口をふさがないようにご本人ご家族と相談の上配置しています。その他必要な場合はご家族に連絡し用意してもらったり、施設の家具などを貸し出して対応しています	居室には備え付けのクローゼットはあるが、在宅時から使い慣れた家具、仏壇、思い出の品を持ち込み、家族と相談しながら本人に危険がないように配置し、自分の部屋して安心して暮らせる様に配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや部屋の入り口に目印をつけたり、食事はそれぞれにあった高さの違うテーブルやいすを用意したりしやすい環境の整備に努めています		

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0191513704		
法人名	株式会社 杉の木ケアサービス		
事業所名	グループホーム杉の木 3階ユニット		
所在地	〒049-0422 北海道上磯郡木古内町字本町704		
自己評価作成日	令和3年9月25日	評価結果市町村受理日	令和3年11月11日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ol style="list-style-type: none"> 24時間医療連携がとれる体制を整えている 地域の食材、特に旬のものを利用した手作りの料理を提供している 介護が画一的にならないよう入居者様の個性を尊重した介護を行うよう心掛けている ご家族様も参加できるような催し物を企画、開催している 地域の方々が収穫した野菜や料理をふるまってくれたり等で協力してくださる 内装は地元の杉材を利用し、落ち着いた雰囲気統一している
--

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigvgysoCd=0191513704-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	令和3年10月17日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(3階ユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	住み慣れた地域で自分らしく安心して暮らせる柔軟な支援を理念として掲げ、施設内に掲示しご家族、来客の方々も目にすることができます。申し送りやホーム会議で再確認を行い実践に取り組んでいます		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	催事には体調に合わせて参加し、ホームの催事は事前に案内を伝え地域の方々の参加を呼び掛けている		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方々に認知症介護に関する不安や相談に対応できるように努めています		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に活動報告と意見交換を行っています。いただいた意見はホームの運営やサービスの向上に役立てています		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域包括支援センター、社会福祉協議会の方々と密に連絡を取りサービスの質の向上と提供に努めています		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修や勉強会を通して身体拘束に関する知識の共有を図り、身体拘束をしないケアの実践に努めています。やむを得ない場合はスタッフ会議で検討、ご家族様へ十分な相談、状況の十分な説明を行い、了承をいただいた場合のみ行うこととしています		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会や勉強会を通して虐待防止に関する認識の共有を図り虐待のないケアの実践に努めています。		

グループホーム杉の木

自己評価	外部評価	項目	自己評価(3階ユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	地域福祉権利擁護事業、成年後見人制度の理解に努め、必要とされるケースに遭遇した場合制度を活用するため関係機関と連携を深めるように体制を整えています		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入退所時は十分に説明を行い、不明な点があればいつでも聞いていただくようお願いしています。特に料金や予想されるリスク、看取りの対応、医療連携についてご理解いただけるまで詳しく説明させていただいています		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入所時に相談苦情についてご家族に説明し、要望や苦情がある場合は運営者に報告、職員全体で話し合い改善に取り組んでいます		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理職はできる限り職員の状況把握に努め、記録の確認、申し送りの際に意見相談を聞き全職員が周知できるよう連絡ノートやホーム会議の場を活用しています		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は定期的にホームを訪れ勤務の実態を把握、相談やアドバイスを行っています。職員が日常的に学ぶことができるよう資料の配布や研修、講習の開催、親睦の機会を設けたり、定期的な健康診断を実施しています		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所内でテーマを決め研修を行っている他、外部研修や講習会などはシフトを調整して多くの職員が参加できるように計らい、参加者には後日レポートを作成し伝達講習も行い参加できなかった職員にも知ってもらえるようにしています		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会などの会合に参加、交流を図り情報収集やサービスの質の向上に取り組んでいます		

グループホーム杉の木

自己評価	外部評価	項目	自己評価(3階ユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に見学や面談でご家族、ご本人様から話を伺い、関係機関の方からも情報を得てスタッフで話し合い安心できるような受け入れ態勢を準備しています		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会時や電話等でご家族様とお話ができる時には何か気になることはないか、意見要望はないか伺っています		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族やご本人の希望に沿った支援を行うことは当然ですが、現状を見て必要な支援が足りていないと判断できる場合は職員全体で話し合い必要な支援を提案するなど様々な対応を行っています		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	毎日の日常的な会話の他、おやつや生活用品の買い物や近所の散策に一緒に出掛けたり、献立の希望を伺ったり共にホームで支えあって暮らしていける関係を築けるように日々努めています		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様でないとまいかないことなどもあるので、負担にならないよう配慮しながら協力していただくことでそれぞれの役割の中で本人を支援しています		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	なじみの方からの手紙、電話、面会、外出支援などできる範囲で入所前の交流が行えるよう努めています		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクや軽作業など利用者同士で関われる環境を多く見つけ情報を共有し共同生活が送れるよう努めています		

グループホーム杉の木

自己評価	外部評価	項目	自己評価(3階ユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院のため退所された方へお見舞いに行ったり、退所された方のご家族に街中であった時に様子を伺ったりしています		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎日のかかわりの中で見られる表情や態度などから希望や意向を読み取っています。入居者さんそれぞれの思いを大切に対応しています		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前から本人やご家族、関係者に色々伺い生活状況の把握に努めています。入所後も気づいた事はご家族に確認するように努め以前の生活状況にできるだけ近づけるように努めています		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人、ご家族様、関係者の話から生活歴、性格、趣味嗜好を把握し、生活リズムや心理面の変化などは生活記録に記載して共有し全体像の把握に活用しています		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ホーム会議内でケアプランのカンファレンス、モニタリングを行い本人、ご家族の希望を取り入れ次の計画に反映しています		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者それぞれの生活記録に気づいた事、身体精神状態ほか暮らしの様子、発言を記録し、それらについてスタッフで話し合い本人に合ったケアを行っています		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、ご家族の希望にそって通院、買物、理美容院、その他外出外泊などに対応しています		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域との様々な接点を見いだせるよう周辺地域の方々、ボランティアの協力と呼びかけを行っています		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	運営者(医師)の4週間に1回の訪問診療と本人、ご家族が希望するかかりつけ医を利用することにより医師、本人ご家族、ホーム間の報告連絡相談を密にすることで適切な医療を受けられるように努めています		

グループホーム杉の木

自己評価	外部評価	項目	自己評価(3階ユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	スタッフが毎日の入居者さんの状態を報告し医師、看護師が入居者さんの健康管理を行い、本人ご家族様が安心して生活を送れるよう状態に応じた支援を行っています		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時にはスタッフ付き添い医師看護師に必要な情報を提供しています。入院中スタッフお見舞いに行き本人、看護師から様子を伺い状態の変化、把握に努め退院後適切なケアを行えるようスタッフに伝えています		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に看取りについて説明し方針を統一しています。状態に変化ある時はご家族に報告、相談しホームでできる事できない事を説明し今後の方針や具体的な支援の方法について話し合い決めていきます。医師、看護師、介護スタッフが一体となり本人、ご家族の希望を汲み取りその人らしく最期を迎えられる支援を行っています		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時は医師、看護師に連絡し迅速に対応が行われます。医師の指導の下応急手当やAED講習会を行っており適切な対応ができるように努めています		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防火管理者が消防、災害対策計画を定め定期的な自主検査と防災訓練及び講習を行っています。非常時には連絡網でスタッフを招集するほか近隣の健康管理センター職員も応援に来てくれる体制を整えています		

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	自尊心、羞恥心に配慮した声掛け、介助を行い、故人の記録ファイルは施錠できる保管庫で管理している。スタッフは採用時に個人情報保護、守秘義務について説明を受け、誓約書に署名しています		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	スタッフの判断ではなくまずご本人に意思確認をし決めてもらうようにしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたか、希望にそって支援している	起床の時間や食事の時間等でできる限りその方のペースに合わせて時間を調整しています。入浴もある程度日程や順番は決まっていますが、本人希望で日時をずらせるように対応しています		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人と相談し希望や意思で選んだり行っていますが、天候や体調を見てスタッフが助言提案することもあります。髪が伸びてきたら理美容院にカットをお願いしています		

グループホーム杉の木

自己評価	外部評価	項目	自己評価(3階ユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者さんそれぞれの好みを把握し、誕生日には好みの献立づくりをしたり楽しく食事ができるよう工夫しています。できる方は一緒のおやつ作りや食事の下ごしらえ		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	それぞれの食事・水分摂取量を毎日記録し栄養のバランスに注意した献立を考えています。味付けや盛り付け方、量の増減、大きさやきざみ・とろみをつけたりなど工夫して提供しています		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後のうがい歯磨き、義歯の洗浄・つけおき、口腔内の観察を声掛けまたは介助で行っています		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	それぞれの状態により日中は紙パンツ、夜間は紙おむつで排泄したり、夜間だけ室内にポータブルトイレ設置して使用したり、適時排泄の声掛けや誘導・確認を行うなど快適に排泄ができるように努めています		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	乳製品や繊維質の多い食事、水分補給無理のない範囲での軽い運動などできる限り自然排泄できるよう支援しています。便秘で下剤が必要な場合医師に連絡し指示の下で使用しています		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	本人の希望によっては時間を変更したり次の日にしたりすることもできます。入浴する前にはバイタルを確認し問題ないことを確認してから入浴しています		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動のほか臥床時間を設けたりそれぞれのペースで過ごしてもらえるように努めています。室温やホーム・部屋内の明るさにも配慮しています		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	それぞれ薬箱用意、名前・日付・食前食後を記入し薬箱に入れた時、箱から出した時・服薬直前にも薬の確認を行い飲み忘れや誤薬を防いでいます。処方内容はファイルで保管しておりスタッフがいつでも確認できるようになっています		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	レクやちょっとしたお手伝い、軽作業などそれぞれに合ったものをホームでの暮らしの中から探し出し、一緒に楽しんだり作業終了時には感謝の言葉を伝えていきます		

グループホーム杉の木

自己評価	外部評価	項目	自己評価(3階ユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご家族との外出のほか、天気の良い日は買物や散歩、菜園の収穫、地域のイベントを見に出かけています		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金はご家族で管理したり希望があれば施設で管理していますが、少額なら管理できる方にはご家族の了承を得て自身で管理しています		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自身で行うことが困難な方はスタッフが電話をかけたり取り次いだり、手紙の代筆、代読を行っています		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節ごとにその季節にあった飾りつけや小物の作成、植物の水やりを行っています。天候・温度・湿度にあわせカーテンや窓、暖房を調整、共有空間はこまめに換気、清掃し快適に過ごしてもらえるよう配慮しています		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者さんは自由に共有空間を使用することができます。同じように自室でも過ごせます。部屋にいる時間が長い時は時々スタッフが様子を見に行ったり、声掛け行っています		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時にいくつか使い慣れたものを用意してもらっています。家具などは部屋の入り口をふさがないようにご本人ご家族と相談の上配置しています。その他必要な場合はご家族に連絡し用意してもらったり、施設の家具などを貸し出して対応しています		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや部屋の入り口に目印をつけたり、食事はそれぞれにあった高さの違うテーブルやいすを用意したりしやすい環境の整備に努めています		

目標達成計画

事業所名 グループホーム杉の木

作成日：令和 3年 11月 11日

市町村受理日：令和 3年 11月 11日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	20	新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のためホームへの面会制限を行っているが、最近の感染状況を鑑みると少し緩和する必要がある	ご家族・親族様の面会の機会を増やす	コロナワクチン接種済みの方、面会時に発熱のない方はマスク手袋着用の上でホーム内(入居者居室)でも面会が行えることを通知する。本州などの遠方の方は従来通り玄関前でビニールカーテン越しの面会を行う	1年
2	49	新型コロナウイルス感染症の流行によりホームでの外での催しへの参加、近所の散策に制限をかけていたが最近の感染状況を見て少し緩和する必要がある	春～秋の期間の外出の機会を少しずつコロナウイルス発症以前の水準に戻していく	家庭菜園の手入れ・収穫。その他近所の散歩、スーパーなどへの買い物、床屋・美容室への外出。お花見などのホーム全体のイベントを流行状況を見ながら行っていく	1年
3	21	新型コロナウイルス感染症の流行によりホーム内の合同の催しも制限していたが、最近の感染状況を見て少し緩和する必要がある	コロナウイルス発症以前のような合同イベントを状況を見ながら少しずつ増やし、入居者さん同士の交流を図る	昨年できなかった運動会などの2階3階合同のイベントの開催を目指す、近いところではクリスマス会などの催しを状況見ながら行う	1年
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。